

●木津川運動公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設との役割を踏まえた特色ある運営に取り組むこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・城陽秋花火大会、熱気球フェスタ、ごちそうフェスタ、パラグライダー体験、紙飛行機イベントなどの特色あるイベントを継続開催。 ・「森守クラブ城陽」をはじめ、学生ボランティアの「プレイリーダー」の他、「城陽五里五里の丘紙ヒコーキクラブ」、「花壇ボランティア」、「公園パートナー」など地元の方々を中心としたネットワークを構築し、1年を通じて多様なイベントを実施。 ・プレイリーダーの育成をとおして、はらっぱ KIDS クラブの開催をはじめ、ごりごりの丘プレイパーク、幼児プレイパークなど、子育て支援事業の開催に注力。 ・園内環境の生物多様性に注目し、継続的な生きもの調査の実施や、カヤネズミ（京都府準絶滅危惧種）の保護活動など、環境保護、環境教育事業にも注力。
<p>取組の結果</p>	<p>◇新型コロナウイルス感染症の影響を除くと利用者数は増加傾向。 平成28年度と比較し、令和元年度は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約30%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆有料施設がなく、自主事業も公益事業が中心であり、収入が少ないため、府の負担割合は100%の状況。 ◆新名神高速道路の開通や周辺の開発のインパクトを生かした新たな賑わいの創出。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □公園として生成されるプロセスに大きな魅力を有しており、今後の全面供用開始を踏まえて、そのプロセスを共有できるような公園づくりを目指すことが期待される。 □設置目的（運動公園）の推進よりも、利用者の現状にあわせ、サービスを向上することが賢明であり、利用者が喜ぶソフトのプログラムをステークホルダー（府民・府内企業等）のノウハウを活用し、協業すればどうか。 □既に地域住民による活動参画も進んでいる状況を踏まえ、より明確に「地域に根ざした地域のための公園」を目指してはどうか。自分たちの公園という意識・機運の盛り上がりは運営上の大きなメリットとなる。 □ネーミングから想像される公園機能とは異なることから、より本公園の魅力を府民に分かりやすく伝えることが重要である。 □新たな駐車場の確保の検討が必要であるとともに、駐車場は有料化を検討すればどうか。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p>◎今後の木津川運動公園全面供用や近隣施設の整備を踏まえ、地域住民や府内企業の参画を得ながら、更なる利用者の満足度を高める仕組みづくりに取り組むこと。</p> <p>◎更なる効果的な利活用に向け、駐車場の確保を検討すること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○北側区域を含む周辺施設の整備を踏まえ、南側の特色を生かした魅力ある運営に取り組む。</p> <p>○北側区域を含めた、木津川運動公園全体としての駐車場の配置・管理運営について検討する。</p>